

教育プログラム成果報告

岡山で「吉備の杜」シンポ

参加学生と企業側討論

岡山県内の企業に就職し、地域の産業活性化に貢献する人材を育てる「吉備の杜」創造戦略プロジェクトのシンポジウムが18日、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールで開かれた。2021年度に始まった教育プログラムの成果報告などがあった。

同プログラムでは、県立大(総社市)の3、4年生、大学院生がフードビジネスなどの「食」、「ICT(情報通信技術)」、木材資源を生かす「森と木」の3分野で授業を受け、20日間にわたり県内企業に入って若手社員と現場で開発や設計に取り組んで

る。パネルディスカッションなどがあり、参加した学生や受け入れ企業の担当者らが出席。学生の報告では、木を育てて木造住宅を建設し解体後は木材燃料としてエネルギー利用を図る木材資源循環型の街をデザインした経験などが紹介された。液体みその添加物を研究した学生は「課題解決力が身に付いた」と手応えを語った。

企業側からは「学生と一緒に働くことで刺激を受け、若手社員に競争意識が生まれた」と評価の声が上がった。プログラムの実施期間をもっと長くしてほしいとの要望も出た。

基調講演では、京都大経営理大学院の若林靖永教授が、持続可能な地域を目指す上での大学教育の大切さを話した。

同プロジェクトは県立大や県、中国銀行、山陽新聞社など県内21企業・団体による協働組織が20年度から5年間実施。シンポジウムは新型コロナウイルス感染対策で無観客とし、動画投稿サイト・YouTubeでライブ配信した。

(高橋由大)



大学院生や企業担当者が教育プログラムの成果などを話し合ったシンポジウム